

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題
信条教育	将来立派なよふぼくになるための基本的な素養を身につけさせる	1 「めざす教職員像」を意識しながらいつその成人を目指して自らの信仰を深める。	A	「めざす教職員像」を常に心に置き、更なる成人を目指したい。今までできていることを粘り強く継続しつつ、それぞれが信仰の上に地道な努力を重ねていきたい。
		2 自身の信仰姿勢を児童に映すよう心掛けるとともに、教員に基づく学級経営・学校運営を目指す。	B	教職員自身が自教会の参拝や各種行事等に積極的に参加し、また、教祖のひながたを学び直し実践していくことを通して、学校生活のあらゆる場面で子どもたちに語り、謙虚な気持ちで信仰実践を重ねていきたい。
		3 信条の授業充実を目指す。信条の授業をはじめ、あらゆる機会を通して親神様の思召し、教祖の親心を児童に伝える。	B	信条の授業を組立てる際、子ども達に伝わりやすいように様々な工夫を凝らしているが、教職員が学んだことや授業実践を他の教職員と共有することで、さらに信条の授業を充実させたい。
		4 朝の学校参拝を児童と共に心を込めてつとめることで、勇んで一日の学校生活を送るようにする。	B	参拝前に機をとらえて担任がクラスの児童に一言話し、心を揃えてつとめられるようにしている。コロナ禍では控えていた元気に唱和しての参拝ができることに感謝し、勇んで一日が過ごせるようにしたい。
児童育成・生活指導	生きるための力を高めさせる	5 水泳、持久走や縄跳び、さらに運動会をはじめ様々な学校行事を通して、体と心を鍛えさせる。	A	水泳授業や運動会、縄跳びの取り組みがコロナ前のように実施することができ、心身を鍛える活動の機会が確保できた。夏の体育は熱中症に細心の注意を払いながら実施出来た。
	生活のきまりを徹底させる	6 きちんとした挨拶ができるよう常に指導を心掛ける。とりわけ来校者への挨拶を徹底させる。	A	従来から登下校をはじめ様々な場面で、挨拶ができない姿が指摘されてきた。大人である我々教職員が子ども達のお手本となるような勇んだ挨拶を今以上に実践し、子ども達の心に映していきたい。
		7 「学校のきまり」を繰り返して確認することで、落ち着いた学校生活を送るよう導く。	B	きまりを守ることで、自分自身が守られることを念頭に指導にあたっている。今後も常日頃から「学校のきまり」の確認を意識し、共通のものさしで子ども達の指導にあたっていきたい。
		8 校内での規律正しい生活に加え、公共の場での立ち居ふるまいについても重視して指導する。	B	校外学習や修学旅行、社会科見学等は、子ども達に公共のマナーを学ばせる絶好の機会である。その機会を逃さず、事前に子ども達に注意すべき点を考えさせ、それらを守らせるように指導していきたい。
	ものを大切にさせる	9 学用品をはじめ給食についても感謝の心をもって粗末にしないよう指導をする。	A	感謝の心で生活することは、信条教育の根幹にかかわること。そのことを肝に銘じて、常々指導にあたらなければならない。身の回りのすべてのものは、親神様からのお与えであることを忘れず、お互いに感謝の心で生活していきたい。
	相手の立場を認め励まし合い助け合う温かな学校づくりを目指す	10 お互いがしっかり励まし合い、助け合うことによって徳分を磨かせる。そのことを通して学校に温かな雰囲気をつくる。	B	天理教少年会員のちかいかの中に「互いにたすけあつて、立派なよふぼくに育ちます」とあるように、どんなにつらいときでも相手を思いやり、励ましや助け合いの心で接することができるよう、今後も子ども達に伝えていきたい。
	問題行動の未然防止と速やかな対応を行う	11 子どもの問題行動を未然に防ぐため、小さなサインを見逃さず速やかに対処する。そのために教育相談・いじめ・不登校対策委員会をしっかりと機能させる。	B	小さなサインを見逃さないよう、細かい情報もすぐに教職員で共有し、また、担任一人が抱え込まずチームで対応するよう心掛けた。今後もシステムの運用状況を点検し、より良いサイクルで回るように努める。
	いじめ問題への対応をきちんとする	12 いじめの原因、背景、具体的な指導のあり方などについて、さまざまな場で教職員の共通理解を図る。	B	いじめを未然に防ぐ為の情報共有をより徹底していく。また、児童の様子で違和感を感じた際は、担任や担当外であっても積極的に対応策を提案していくようにしたい。
児童の安全対策と交通安全指導を徹底する	13 児童の危機回避能力を養う避難訓練や交通パトロールによる安全指導を定期的に行う。	B	避難訓練・防災訓練は、年に2回実施。通学路パトロールは、主に育友会の方々のご協力をいただいている。今後も、情報共有を進めながら、防犯・防災の意識を常に持って、対処していきたい。	
学習指導	基礎・基本を確実に習得させる	14 授業の取り組みを中心にして、基礎・基本を確実に習得できるよう指導に力を注ぐ。	A	ICT機器の導入によりタブレット端末を使用する機会が増えたが、従来通りの学習も疎かにせず、確実に基礎基本が習得できるようにしていきたい。
	個に応じた指導を行う	15 児童の実態に添って、教材や指導法に工夫を凝らし、合わせて個々の学習状態に応じて学力の伸長を図る。	B	今後も様々な工夫を凝らし、一斉指導の中で児童一人ひとりの力を伸ばす努力をしたい。さらに、ICT機器を利用するなどして個別最適化への取り組みも意識し、授業を考えていきたい。
		16 家庭とも連携を深めながら自ら学習出来るよう導く。	B	1人1台端末の導入により、家庭学習のスタイルも部分的にデジタル化が進んだ。タブレット端末をより有効に活用できるようにし、自ら学習ができるように指導していきたい。
研修	研修体制を充実させ、児童の学力向上を目指すとともに、児童の健全な育成を図る	17 研究テーマに添って、教員一人ひとりが研究授業・自己評価を行い、個々の授業力向上に努める。	B	研究テーマに沿って、研究授業・自己評価の流れが従来から定着してきている。教員一人ひとりの学びが連鎖的に教員全体に広がっていくような研修の機会を設け、個々の授業力向上に努めたい。
		18 特別支援教育や不登校に関する学習会（事例検討会）や講演会を計画的に実施し、児童一人ひとりの理解に努める。	A	本校教員を講師とした特別支援教育の学習会・事例検討会を複数回開催し、児童理解に努めたが、不登校傾向の児童を含め、個別に支援を要する児童に適切に対応できるよう、研修を続けたい。
保護者連携	保護者の信頼や期待に応える	19 保護者の要望や意見などに対して、電話・手紙のやりとりだけではなく、家庭訪問などよりきめ細かな対応を心がけ、保護者との信頼関係を築く。	B	保護者との信頼関係を築くため、直接会って懇談する機会を大切にすると共に、児童の学校での様子が分かるよう情報の発信方法を改善していきたい。また、ICT機器を活かし、重要な情報を保護者に迅速に届けられるように工夫していきたい。